

17:10
~17:30

「命の尊厳について」

「命の尊厳」と一言で言っても、様々な「命」がある。人の命。動物の命。植物の命。果ては、もし無生物にも魂があるという考えに立てば、石ころのようなものにも命があるとし、その尊厳とは、と考えると意味が分からなくなるとなる。

無生物は極端だとしても動物（人間も含めて）の命について考えてみよう。先日ドキエメニタリー映画で見たのだが、放射線の及ぶ地域の牛はほぼ殺処分になった。ところが、

希望の牧場では、放射線があつた国の基準では食用に適さなくなつた牛を三〇の頭以上飼育し続けている。この牛達の、そしてこの牛達を飼育する人の命の尊厳とは何か。

もう食用として役には立たない。それでも牧場長は言う。「彼らも終生飼養すること、国の誤りを指通し、彼らも研究すること、役立てるのだ。」と。一見無意味に見える命にも、意味を見出し、価値をかく。人も動物も命の尊厳の源をここに置いてこそ生きられる。

文責 神城

2013.11.6.